

# 明治史料館通信



総ぞろいした沼津兵学校の人材(東京都永井菊枝氏所蔵)

- ①山口信邦②木村才藏③大平俊章④鈴木知言⑤中川喜重⑥入江倫愛⑦野沢房迪⑧新井秀徳⑨末吉邦郎⑩矢橋裕  
 ⑪中村正壽⑫渡辺當次⑬諏訪頼永⑭永峰秀樹⑮愛知信元⑯古川宣譽⑰永井久太郎⑱水野勝興⑲成沢知行⑳永嶺源吉  
 ㉑伊藤直温㉒瀬名義利㉓横地重直㉔遠藤信古㉕三田信㉖杉亨二息子㉗高松寛剛㉘仙波種艶㉙石橋絢彦  
 ㉚佐々木愼忠郎㉛久須美祐利㉜石橋好一㉝田辺太一㉞江原素六㉟杉亨二㊱山田昌邦㊲間宮信行㊳赤松則良  
 ㊴森川重申㊵乙骨太郎㊶佐久間正㊷成瀬降藏㊸加藤義賢㊹岡敬孝㊺林正功㊻松山温徳㊼並木元節㊽熊谷直孝  
 ㊾神保長致㊿榎本長裕㊽眞野肇㊽矢吹秀一㊽新家孝正㊽荒川重平㊽宮川保全

シリーズ  
 沼津兵学校とその人材 ③

## 沼津兵学校の 同窓会

沼津兵学校がなくなつてから四十年近い年月が流れた明治四十一年(一九〇八)五月十日、かつて兵学校の資養生として共に机を並べた仲間たちが呼び掛け合つて、東京向島枕橋八百松楼を会場として謝恩会が開かれた。

出席した元資養生は三十七名にのぼり、招待され参来した元教官は、江原素六・赤松則良・田辺太一・乙骨太郎・乙・杉亨二ら十四名であった。このように多数の旧沼津兵学校の師弟が一同に会したのは最初で最後のことであつたといえる。

上の写真は、この謝恩会での記念写真であり、兵学校関係者が総ぞろいした大変珍しく貴重なものである。皆一様に功成り名遂げた人々の顔である。

なお、沼津兵学校関係者の同窓会・親睦団体には、沼津旧友会とか四両会といったものがあり、明治・大正を通じて常時活動していたようである。

〔参考文献〕石橋絢彦「沼津兵学校沿革(七)」(『同方会誌』四十四)。

ぬまづ近代史点描③

沼津藩出身明治人物小伝

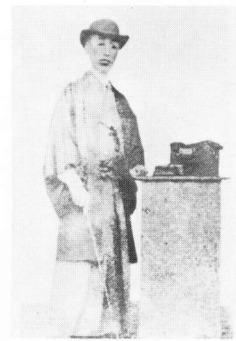
手島精一



嘉永二年江戸藩邸に生まれる。

幕末には藩主水野忠誠の側近く仕えた。維新後江戸の藩校洋学局に学び、明治三年にはアメリカ留学の機会に恵まれた。帰国後は、開成学校・文部省などに奉職し、主として博覧会・博物館関係の役職を歴任した。工業教育振興を鼓吹し、東京職工学校―東京工業学校（現東工大）の校長・文部省実業教育局長などをして、工業教育に大きく貢献した。晩年には工業教育の育英事業として、財団法人手島工業教育資金団を設立した。わが国工業教育の父といわれる。大正七年没。〔参考〕『手島精一先生伝』ほか。

服部純



松永礼三氏提供

純・純人・峰次郎・弁内・実庵・方従など多数の名をもった。藩士服部純平（方信）の子として生まれた。弘化四年頃から江川担庵の葦山塾で砲術を学び免許皆伝を許された。安政五年には、小林信近・武田簡吾らと「輿地航海図」を公刊した。また、元治元年には仲間四人とともに脱藩を企てたが、捕えられ処罰された。彼は幕末の沼津藩において、蘭学を修めた知識人であると同時に革新的な政治青年であったと思われる。維新後菊少参事に任命された。同三年には藩の飛び地である三河国大浜（現愛知県碧南市）に赴任し、勤王思

想と開化主義にもとづき新政を実施した。特に神仏分離を強力に押し進めたが、三河は伝統的に浄土真宗の強固な地盤であったため信徒住民の猛烈な反発をうけ、死傷者を出す大騒動に発展した。この事件は大浜騒動といわれ、近代宗教学史上有名である。服部純は明治十一年四十五歳で亡くなった。〔参考〕鈴木保「沼津水野藩と高島流砲術について」ほか。

服部綾雄



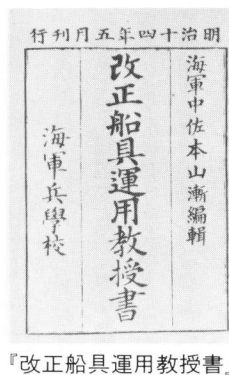
松永礼三氏提供

服部純の息子として文久二年に生まれる。維新時には菊間に移住したが、沼津兵学校附属小学校で学んだともいわれる。横浜のヘボン塾（のち築地大学校）に入学し、明治学院の初代幹事となった。明治二十一年にはアメリカに留学し神学を学び、帰国後牧師となった。その後、富山中学校長・岡山中学校長などとして教育にも携わり、

明治四十一年には岡山県から衆議院議員に当選し、大養毅の立憲国民党に参加、政治家としても活躍した。大正二年、政友会の江原素六とともに渡米し、日系移民排斥運動緩和のために尽力したが、翌年サンフランシスコで客死した。

〔参考〕大野虎雄『沼津兵学校附属小学校』ほか。

本山漸

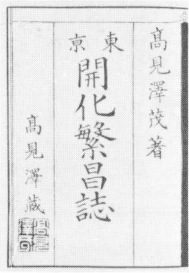


『改正船具運用教授書』

旧名を漸吉といった。維新後江戸に移された藩校明親館の洋学局の教授に任命され、明治二年には明治政府の海軍操練所に出仕し、三年には海軍兵学校の大助教となった。田中義門・近藤真琴らとともに幕創期の日本海軍教育の功勞者である。その後、筑波艦長・金剛艦長・軍務局次長・海軍兵学校長などの要職をつとめ、少将にのぼった。また江原素六の麻布中学校の理事などもつとめている。

高見沢茂

藩士高見沢順の子に生まれる。明治四年、菊間藩の貢進生として大阪兵学寮の青年学舎に入学した。兵学寮での規則づくめで、絶対服従を強制される窮屈な生活に反発し、「青年舎夢之記」という卑肉と批判精神に満ちた内情暴露の手記を発表したペンネーム「菊間の漁夫」なる人物は、高見沢その人であるといわれている。明治七・八年ころは、イギリス人ブラックが発刊した民権派の新聞『日新真事誌』の記者・編輯長をしていたが、八年十月わずか二十六歳で亡くなった。彼には幾つかの著書があるが、中でも『東京開化繁昌誌』（明治七年刊）は、当時の文明開化の



『東京開化繁昌誌』



『日新真事誌』

世相・風俗を卑肉とユーモアをもつて鋭く描写したものであり、『明治文化全集』にも収録されている。参考▽柳生悦子『史話まぼろしの陸軍兵学寮』ほか。

岩城 魁



梅閣・石丈・夢遊軒などと号す。幕末時には藩校の漢学教授であった。維新後菊間に移ったが、後静岡県にもどり、伊豆の修善寺で小学校の訓導になり、また静岡師範学校や静岡中学校でも教鞭をとった。明治三十八年七十四歳で死去。

『沼津雑誌』・『読史偶詠』などの著書がある。参考▽『修善寺村誌』ほか。

深沢雄甫（文温）

文政五年、沼津藩医深沢雄甫兼文の子に生まれる。天保十二年より杉田立卿、弘化二年から緒方洪庵につき蘭方医学を学ぶ。明治維新により菊間へ移住し、菊間藩の

大助教

に任命された。

明治五年静岡

県にも

どり三島で開

業した。

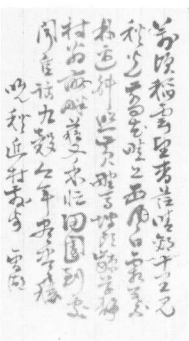
明治二

十五年

没。参考▽『沼津医師会史』。

島津元圭

維章・対岳・雪湖などと号す。古い医家島津家の十一代目。父維範（得山・恂堂）は侍医と藩校教授を兼ねた。元圭は江戸の三宅良齋に蘭方を学び帰藩して活躍した。維新時には、官軍と戦おうとした。林昌之助・伊庭八郎らの遊撃隊を説得したというエピソードもある。大正元年に八十三歳で死去。参考▽『沼津市医師会史』ほか。



島津元圭の書

柳下知之

恵齋―立達―容齋（知之）というように柳下家は三代にわたり沼津藩医をつとめた。維新後知之は菊間に移ったが、のち大学東校・文部省・陸軍省等に出仕し、二等軍医になった。後年は三島に住み、明治三十三年七十四歳で没した。参考▽『沼津医師会史』。



柳下知之の墓

三浦 徹

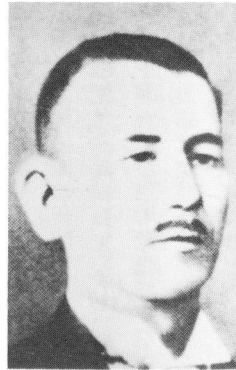
嘉永三年に生まれる。父の千尋（佐太郎）は、幕末に服部純らとともに江川担庵に砲術を学び、嘉永元年から韭山塾の塾頭をつとめ、維新後は菊間藩大参事に任命された人物。徹は父とともに菊間に移



三浦 徹

住し、のち上京して英学を学んだ。明治八年、スコットランド一致長老教会のダヴィドソンから受洗し、以後牧師として千葉・東京・盛岡・静岡・三島などでキリスト教の布教に従事した。大正十四年没。彼の手記『恥か記』は日本プロテスタント史上の貴重な史料となっている。〔参考〕『明治学院史料資料集』ほか。

桜井鉄太郎



慶応元年生まれ。少年時代は沼津中学校で学び、後上京、明治二十三年に東京帝国大学法科大学を卒業した。内務省に奉職し、長野県参事官・石川県参事官・岡山県警部長・茨城県書記官を経て、東京税務監督局長・神戸税関長・大蔵省主税局長・同関税局長・同専売局長・大蔵次官心得などを歴任した。大正九年から十一年までは第五代の神戸市長をつとめた。

〔参考〕『日本の歴代市長』ほか。田辺貞吉



藩士田辺四友の子として生まれる。手島精一の二歳年上の実兄にあたる。明治二年菊間藩権少参事、翌三年同少参事に任命された。後住友家の総支配人として活躍し、銀行集会所長に選任された。住友を去ったあと、京阪電鉄を経営し、監査役（明治三十九年〜）・社長（四十四年〜大正元年）をつとめ、さらに共同火災を設立してその社長となるなど、大阪の実業界で手腕を振った。〔参考〕『東海三州の人物』ほか。

お知らせ欄

◎映画「沼津兵学校」のフィルムを購入

館では、今年度フィルム資料として、映画「沼津兵学校」を購入しました。これは東宝映画で昭和十四年に製作、公開された作品で今井正監督のデビュー作として、映画ファンにとっても興味の持たれる作品です。脚本は片桐勝男、八木隆一郎で、黒川弥太郎、花井蘭子、山根寿子などの懐かしい俳優が登場しています。

館では、(株)東宝の特別の協力を得て、複製フィルムを購入、この秋開催した歴史講座で初めて公開上映しました。

著作権法上の制約等により、貸し出しはできませんが、上映計画については館までご相談下さい。

◎フィルムライブラリーの活用を

このほか館にはつぎのような教育用フィルムライブラリーがあり、貸し出しを行っています。

団体の学習会や、学校での歴史授業などにご活用下さい。

★「幕末から維新へ」二〇分、カ

ラー、小学生高学年以上向。

幕政の動きや諸外国との対応の中で、世界の情勢にめざめた若い武士たちの活躍をはじめとして、近代日本の夜明け前の姿を描く。

★「明治(一)文明開化の世の中」二〇分、白黒、小学生高学年以上向  
欧米の制度や文明が次々に取り入れられた明治の時代を人々はどう受けとめたか。憲法制定や国会開設への民衆の動きを描く。

★「明治(二)新しい産業の発達」二〇分、白黒、小学生高学年以上向  
日清・日露の二つの戦争を通して産業や交通が発達し、近代産業の基礎ができた明治の時代を再現。  
★「日本近代女性の歩み」四一分、カラー、高校生以上婦人向。

先覚者平塚らいてうを軸に、日本の女性百年の歩みを津田梅子、樋口一葉、与謝野晶子などを登場させ、社会の変化とともに描く。

沼津市明治史料館通信 第4号

編集 沼津市明治史料館  
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五